

受付番号

51

許可番号

大歯医倫 第 111146 号

研究課題名

進行性神経変性疾患患者のための標準化された口腔機能・感覚テストの確立

研究責任者

島田 明子

申請者

林 浩基

研究終了日

2023 年 12 月 31 日

所属

高齢者歯科学講座

所属

歯学研究科

高齢者歯科学専攻

職名

講師

職名

大学院 1 年生

申請の概要

現役 1 人が高齢者 1 人を支えることになることになるとされる 2050 年問題を抱える超高齢社会の日本では、加齢に伴い有病率が上昇し摂食嚥下障害を伴う進行性神経変性疾患（ND）である筋萎縮性側索硬化症（ALS）やパーキンソン病（PD）の患者数が急増しており、「口から食べる」機能の維持・管理は歯科医療従事者にとって重要な責務である。ALS や PD における嚥下障害の重症化に伴い、患者は栄養摂取のため胃瘻設置を余儀なくされるが、胃瘻設置時期について現在標準化された臨床基準がない。

本研究では、ALS および PD 患者において、経皮内視鏡的胃瘻造設術の施行時期決定のための非侵襲的かつチェアサイド・ベッドサイドで容易に測定できる標準化された摂食嚥下機能評価法を確立するために、顎口腔系に自覚的・他覚的機能異常を認めない 35 歳以下の男性 30 名を対象に標準化された口腔機能・感覚テストを確立することを目的とする。

本研究により、標準化された口腔機能・感覚テストを確立することができれば、ND 患者に対する定期的な検査が胃瘻

---

設置時期決定の最適化の一助となり、終局的には、尚早な設置による不要な QOL 低下や、設置の遅延による低栄養や誤嚥性肺炎のリスクが回避でき、ND 患者の「口から食べる」機能の維持・管理が可能になると期待される。